

参加費無料  
要・事前申込

# 2023 はこだて科学寺子屋 集中講座

■テーマ

## 科学技術コミュニケーション入門

『ジブンゴト』化を促す

サイエンスコミュニケーションを考える

- 市民公開講座
  - キャンパスコンソーシアム函館  
学生向け単位互換制度対象科目  
「科学技術コミュニケーション入門」2単位
  - 南大阪地域大学コンソーシアム  
広域単位互換制度対象科目  
「科学技術コミュニケーション入門」2単位
- ※単位認定には3日間の受講が必要です

■日時

8/5<sup>±</sup> 10:00～17:00 (オンライン開講)

※13:10～14:40は、

「はこだて科学寺子屋 公開講演会」を実施します。  
この講演会はどなたでも視聴することができます。  
詳しくは裏面をご覧ください。

8/7<sup>月</sup> 10:00～17:00 (対面・オンライン開講)

8/8<sup>火</sup> 10:00～17:00 (対面・オンライン開講)

■対象

- ・集中科目履修希望の学生  
(キャンパスコンソーシアム函館および  
南大阪地域大学コンソーシアム加盟校)

■定員

公立はこだて未来大学 所属学生：20名  
キャンパスコンソーシアム函館、南大阪地域大学コンソーシアム加盟校  
所属学生：10名

■問い合わせ・申し込み

- ・集中科目履修希望の学生：所属校に問い合わせ、申し込んでください。

はこだて科学寺子屋とは、科学技術コミュニケーションの担い手を、函館の地で産み育てることを目的とした取り組みです。この取り組みは、2009年に開始されました。

「はこだて国際科学祭」は、開始当初より「市民がつくる市民のための科学祭」の理念に基づき、活動を実践してきました。また、はこだて国際科学祭の開催と発展にともない、参加者有志によって、科学ボランティア組織「科学楽しみ隊」が自然発生的に発足し、継続的に活動を行ってきました。

科学技術コミュニケーションの取り組みは、社会の状況と密接に関連しています。2011年には、東日本大震災が発生しました。また、2018年には、北海道胆振東部地震がありました。そして、2020年には、新型コロナウイルスの感染が確認され、世界中に拡大していきました。このように、世界的に大きな出来事において、科学技術はどのような役割を果たすことができるのでしょうか。そもそも、科学技術の進歩に関わる方々は、どのような問題に取り組んでいるのでしょうか。それと同時に、私たち一般市民は、科学技術の進歩によって、どのような恩恵を受けることができるのでしょうか。科学技術コミュニケーション活動は、科学技術の

専門家と、一般市民との意見交流の場でもあります。今後、科学技術コミュニケーションは、ますます必要性が高まるものと考えられます。

今年度の科学寺子屋では、脳に関する研究を行われている毛内拓先生をお迎えします。毛内先生は、脳について研究を行われ、精力的に研究活動について発信されてきました。毛内先生のご著書として、『面白くて眠れなくなる脳科学』（PHP 研究所）、『「気の持ちよう」の脳科学』（筑摩書房）、『脳を司る「脳」』（講談社）など、多くの書籍が挙げられます。今回は、毛内先生が手がけられている研究はどのようなものか、また、一般の方々にお話する際に意識されていることなど、研究活動と発表活動の舞台裏について、お話を伺います。

また、集中科目においては、対面授業とオンライン授業を組み合わせ、受講者どうしのディスカッションと発表を重視した活動を行います。科学技術コミュニケーションとは何か、具体的にどのような点に注意する必要があるのか、実際にイベントを進行させる経験を通して、体験的に科学技術コミュニケーション活動に関わる理解を深めます。将来の科学技術コミュニケーション活動として、一方通行の知識伝達に終わらないコミュニケーションのあり方を考えます。

## 【オンライン (Zoom) 開催】

# 2023 はこだて科学寺子屋 公開講演会

## ～研究者ってどんなイキモノ?～

8/5 金 13:10 ~ 14:40 (12:50 受付開始)



### ■司会 辻 義人 (つじ よしひと)

公立はこだて未来大学  
メタ学習センター 准教授

旭川出身。専門分野は、教育心理学・教育工学。主な研究テーマは、「わかりやすく相手に説明すること」です。特に、対面で説明するとき、どのような点に注意して、伝える内容や表現を変化させればよいのかに注目しています。函館の生活も7年目を迎え、いろいろな市内名所やお店を巡っています。最近、函館山の近くの歴史ある建物やお店を巡ることが好きです。



### ■講師 毛内 拓 (もうない ひろむ)

お茶の水女子大学  
基幹研究院 自然科学系 助教

函館市出身。脳科学者。脳科学と言っても脳細胞や脳内物質といった脳のハードウェアの部分を研究しています。逆に、脳細胞がどうやって心の働きのような脳のソフトウェアを生み出すのかに興味があります。都内の大学で生物学の教員をする傍ら、脳科学に関する一般書の執筆も精力的に行っています。函館を離れて久しいですが、心は常に函館にあります。年に一回は必ず帰省します。函館のおすすめスポットは裏夜景。趣味は、道に迷うこと。

●対象：どなたでも

●主催：サイエンス・サポート函館

### ●受講料無料(要・事前申込)

公開講演会の視聴を希望される方は、メールにてお申し込みください。

info@sciencefestival.jp

件名「はこだて科学寺子屋公開講演会・視聴希望」と明記し、本文に氏名と年齢をご記入ください。

折り返し、ZoomのURLをご連絡いたします。

参加状況によっては、視聴できないことがあります。

ご了承ください。

皆さんは、これまで、科学技術に関するイベントに参加したことはありますか。現在、公共機関、教育研究機関、企業や研究所などにおいて、多様な科学技術イベントが開催されています。そのなかでも、「はこだて国際科学祭」は、ひととき大きなイベントといえるでしょう。

この「はこだて科学寺子屋」は、将来の科学技術コミュニケーションの育成を意図した取り組みです。はこだて国際科学祭に関わる方々に、出展に向けた準備の様子や、出展における工夫などのお話を伺うことによって、科学技術イベントのあり方、求められる要素など、新たな観点を得ることを目的としています。科学祭の出展に際して、どのような意図や目的が設定されているのでしょうか。これは、科学祭当日の展示では、なかなか伺い知ることはできません。

今回、講師をご担当いただく毛内先生は、これまで科学祭に出展されています。今回のご講演では、毛内先生の研究内容にとどまらず、研究成果の発信に際して心がけていること、また、出展をとおして得られた経験など、多様な観点からお話を伺います。特に、一般の方々の関心を引き、「ジブンゴト」として考えてもらうために、どのような工夫をされているのでしょうか。本講演が、科学技術イベントのあり方について、理解を深める機会となることを期待しています。